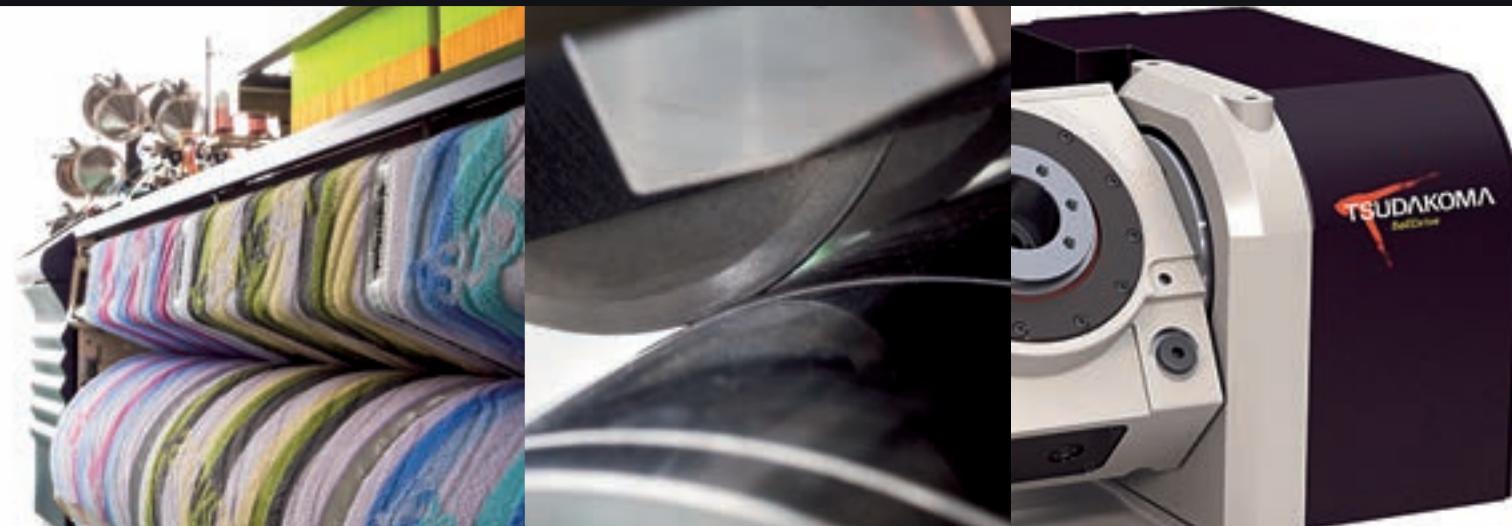


# BUSINESS REPORT



## 株主の皆さまへ 第106期 報告書

2015年12月1日から2016年11月30日まで

キーワードで知る津田駒

P7

1948年

津田駒工業株式会社



代表取締役会長 菱沼捷二 (右)

代表取締役社長 高納伸宏 (左)

2か年中期経営計画の  
効果が表れ、  
5期ぶりの黒字決算を  
果たすことができました。

連結業績ハイライト

受注高	経常利益
<b>36,256</b> 百万円 (前期40,443百万円)	<b>584</b> 百万円 (前期△381百万円)
売上高	親会社株主に帰属する当期純利益
<b>38,870</b> 百万円 (前期36,916百万円)	<b>437</b> 百万円 (前期△443百万円)
営業利益	1株当たり当期純利益
<b>728</b> 百万円 (前期△274百万円)	<b>6.85</b> 円 (前期△6.93円)

第106期報告書をお届けするにあたり、ひとことご挨拶を申し上げます。

熊本地震をはじめ自然災害等で被災された皆さまに、心よりお見舞いを申し上げます。

**Q** 2016年度の業績は？

**A** 売上高38,870百万円、営業利益728百万円と5期ぶりに黒字回復を果たすも、復配には至りませんでした。

2016年度の決算は、売上高38,870百万円、営業利益728百万円、経常利益584百万円、親会社株主に帰属する当期純利益437百万円と、5期ぶり



に黒字決算となりました。2016年度初頭からスタートした2016年-2017年中期経営計画で掲げました、利益体質への転換、適正な受注・売上の確保、生産効率の向上、コストダウンなどの活動が、一つの成果として表れたものと考えています。本当はまだ満足できる結果ではありませんが、計画の方向性は誤っていないと思います。2017年度は計画の仕上げの一年になります。世界経済にはいろいろな不安定要因がありますが、さらに活動を加速してまいります。

なお、配当につきましては、黒字転換いたしましたものの、配当原資を確保するには至っており、株主の皆さまには大変申し訳ございませんが、引き続き、見送りとさせていただきたいと存じます。一日も早く復配するよう全社をあげて業績改善に注力してまいります。

**Q** 繊維機械ではインド市場が成長しました。

**A** インド市場向けの繊維機械売上は前期比78.6%増加しました。

経済成長が著しいインド市場では、エアジェットルームを中心に堅調な設備投資が進みました。その結果、インド向けの売上高は114億円と前期比78.6%増加の高い伸びとなりました。その結果、中国市場の落ち込みを十分にカバーし、黒字化に寄与しました。

インド市場の足元の状況につきましては、2016年11月にインド政府が打ち出しました高額紙幣の廃止政策により、現地の金融や銀行が混乱してい



インドで需要が高いZAX9200i型エアジェットルーム

ます。このため、当社との決済に必要な銀行のL/C（信用状）の発行業務が遅延しており、2017年度第1四半期の売上に影響が出るものと見込んでおります。しかし、現在も引き合いや商談は活発に続いていますし、紙幣問題も一時的なものと判断しておりますので、引き続き、インド市場の需要は続くと考えています。こうした中、2016年12月にインドで開催されましたインド国際繊維機械見本市（INDIA ITME2016）に、当社は最新鋭のエアジェットルーム2機種を出展しました。来場者から高い評価をいただき、力強い手ごたえを感じています。

**Q** 繊維機械の中国市場向けは落ち込みましたが。

**A** 市場の健全化が進み、すでに回復の兆しが見えてきました。

中国市場は、景気後退の影響を受けて、低調に推移しました。一方で、これまで過剰だった設備の解消が進み、品質を重視する市場に転換してきたように思います。その意味では、より健全な市

場になってきたといえます。すでに、優良な企業では景気回復に向けた商談が始まっており、市場は底打ちから回復へと向かっていると実感しています。

**Q** 工作機械関連事業の状況は？

**A** 自動車業界や米国市場向けの販売に注力しました。

NC円テーブルを中心とした工作機械関連事業は、生産革新を進める国内の自動車メーカーや堅調な米国市場をターゲットに販売促進を図りました。特に、当社が開発いたしました新型のボールドライブ駆動NC円テーブルは、従来の駆動システムに比較して、より高速で精度の高い加工が可能になると、大変好評をいただきました。また、従来の駆動方式を採用しているNC円テーブルでも、複数の設計仕様を共通化（プラットフォーム化）して、コストダウンと短納期化を図りました。こうした活動を通して、より市場競争力の高い事業に育て、利益の拡大を図っていきます。

**Q** コンポジット機械の事業化の目処は？

**A** 国内外の引き合いが増加し、当期は収支均衡に挑戦します。

売上の中心はやはり航空機産業です。2017年度は何としても収支均衡に近づきたいと思います。コンポジット機械は2008年の開発着手から国内の

航空機メーカー様との共同研究を進め、最新型航空機の機体のCFRP部材製造に使用されています。海外では世界最大の複合素材展示会に出展し、高い評価をいただき、引き合いもいただいています。2017年度はそうした中から、初の海外納入を予定しています。航空機以外の分野でも自動車業界などから、CFRP素材の実用化に向けた様々な試験のご依頼をいただき、共同で進めています。当社のコンポジット機械は、CFRP素材の量産化に欠かせない自動化装置群であり、引き続き事業化に向けて力を入れていきます。

## Q 2017年度の見通しは？

A 黒字を継続し、さらに利益を拡大できるようがんばっていきます。

繊維機械事業では、先に述べた、インド市場の高額紙幣問題の影響が第1四半期の業績に表れますが、第2四半期以降は正常化すると見込んでいます。低調だった中国市場は新たな成約もあり、回復傾向が一層強まると見えています。工作機械関連事業は、引き続き自動車業界や米国市場への売込みを強めていきます。足元の生産状況も好調です。コンポジット機械はようやく収支均衡が見えてきました。こうしたことから、2017年度も堅調に推移するのではないかと考えています。

一方で、世界経済の先行き、とりわけ米国の政治、経済の動向を注視しなければなりません。基本的には米国経済は好調を維持すると言われておりますので、日本企業にもメリットになると思います。一喜一憂せずしっかり情報を整理していきたいと思います。そして、社内では、生産の効率化とコストダウンを進めて、品質のよい製品をより早く市場に提供する体制を構築していきます。目先の売上を追いかけるのではなく、利益を重視した戦略で、黒字の継続と拡大を図っていきたくと考えています。

株主の皆さまのご期待にお応えして一日も早く復配できるよう、全社をあげて努力してまいります。変わらぬご支援をお願い申し上げます。



# 事業別の状況

## 繊維機械事業

受注高

28,536 百万円 (前期比12.3%減少)

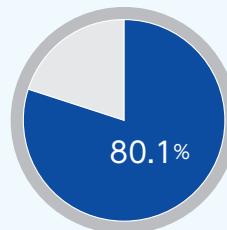
売上高

31,147 百万円 (前期比7.1%増加)

営業利益

1,200 百万円 (前期比1,747.1%増加)

売上高構成比



受注高

(単位: 百万円)



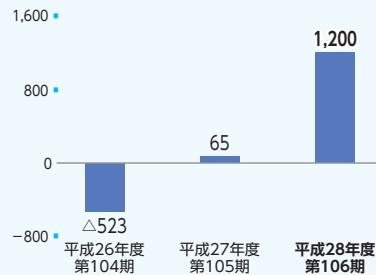
売上高

(単位: 百万円)



営業利益

(単位: 百万円)



## ツダコマの主な製品

### 繊維機械

#### エアジェットルーム・ウォータジェットルーム

水や空気の噴射力を使ってヨコ糸を織り込んでいく織物機械がジェットルームです。最新の電子制御技術を駆使して、1分間に1,000本以上のヨコ糸を織り込みながら、現代の産業界に欠かせない省エネや省人化を両立させました。

流行の衣料素材から産業資材までさまざまな織物を織りこなします。



タオル用エアジェットルームZAX9200Terry

## 工作機械関連事業

受注高

7,719 百万円 (前期比2.3%減少)

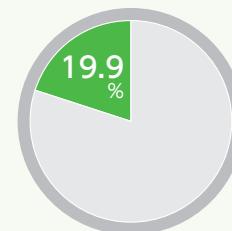
売上高

7,722 百万円 (前期比1.3%減少)

営業利益

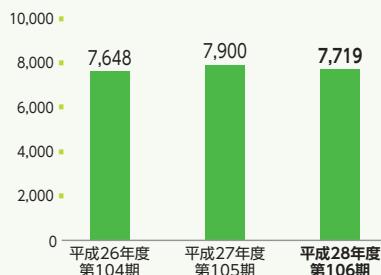
581 百万円 (前期比9.6%減少)

売上高構成比



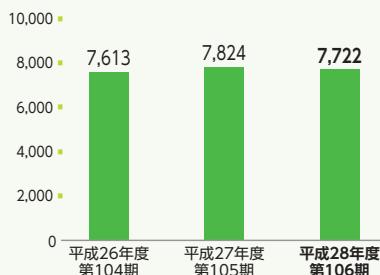
受注高

(単位: 百万円)



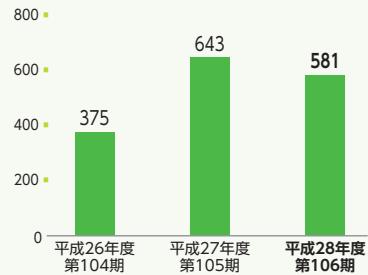
売上高

(単位: 百万円)



営業利益

(単位: 百万円)



### 工作機械関連

#### NC円テーブル・マシンバイスなど

精密な部品加工に欠かせないNC円テーブルやマシンバイスを開発しています。

人気の携帯電話から航空機、宇宙産業まで、さまざまな産業分野でご利用いただける製品ラインアップと高速性、高精度、耐久性が最大の特長です。

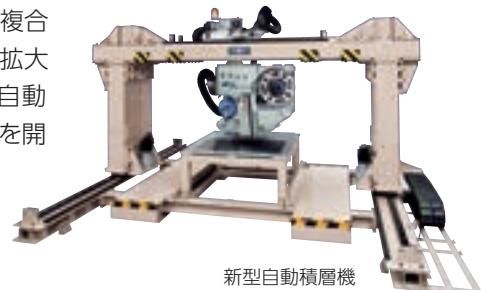


NC傾斜円テーブル

### コンポジット機械

#### 炭素繊維複合素材の自動積層機

21世紀の素材革命といわれる炭素繊維複合素材の自動積層機を開発しています。すでに新型航空機の機体の部材生産に使われています。また、自動車など炭素繊維複合素材の利用分野の拡大に先立ち、新しい自動積層機や周辺装置を開発しています。



新型自動積層機



キーワードで知る津田駒

# 「1948年」

当社にとって、インド市場は古くて新しい市場です。当社がインドに初めて輸出をした記録は1948年に遡ります。

繊維産業において、インド市場はインド綿で知られる良質な原綿が採れる地域で、人口も多いことから、古くから綿織物の大きな産地でした。当社がインド市場に初めて輸出を行なったのは1948年(昭和23年)。YT型というシャトル織機100台を納めたという記録が残っています。

往年の津田駒のサービスマンや営業マンは文字通り「ナベ、釜」を担いで、インドで顧客探しをしたそうです。今のような携帯電話もインターネットもない時代。一度インドに入ったら、本社とは手紙だけが唯一の通信手段。過酷な環境で、一度海外に出ると半年は日本に帰ることができなかったそうです。

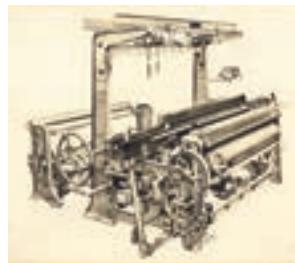
そういう市場の開拓時代を経て、長年インド市場とのコミュニケーションを図り続けた今、ようやく、インドの繊維市場が大きな近代化の波を迎えています。

インド市場で稼働している織機はまだ旧式のシャトル織機が中心で、織物市場の近代化がなかなか進まなかった市場でもあります。津田駒はねばり強く、ジェットルームの普及に力を注いできました。近年では、2011年にムンバイにジェットルームの販売・サービス会社を設立し、現地の近代化投資の本格化に備えてきました。

そして2014年にモディ新政権が発足すると、積極的な経済政策が展開され、繊維産業の近代化投資も急速に伸びてきました。2014年に31億円だったインド向けの繊維機械売上は、2015年に64億円、2016年には114億円になりました。

インド市場の特徴は、やはり綿織物です。当社の製品でいうと空気の噴射でヨコ糸を飛ばすエアジェットルームが需要の中心で、ジーンズの生地になるデニム織物やシャツ地、タオル地などいろいろな仕様のエアジェットルームの需要があります。当社は、昨年インドで開催された国際繊維機械展示会に参加し、インドの皆さまに最新のジェットルームをご覧いただき、その性能を十分に認識いただきました。そして、サービス体制の充実をアピールして、最新鋭の織機でも安心してご利用いただけることをご理解いただきました。また、インドでは、経済発展に伴い、最新の工作機械の導入が進み、当社のNC円テーブルの販売も拡大しています。前述の子会社においても開設直後からNC円テーブルのサービスを開始し、ブランドの浸透を図っています。

当社は今後ともインド市場への販売を積極的に進め、繊維機械事業、工作機械関連事業の拡大に注力してまいります。



1948年インドに輸出されたYT型シャトル織機



最新鋭のデニム生地用ジェットルーム

## 健康経営の取り組み

当社は、平成28年12月1日、健康経営方針を策定し、従前より継続してきました健康に対する取り組みに対し、一層経営の関与を高め、従業員が心身ともに健康で安心安全な環境で働けるように健康経営に積極的に取り組むことを宣言しました（詳細はホームページに掲載しています）。当社のユニークな健康への取り組みをご紹介します。

### インターバルウォーキング

工場内の移動中もちょっと健康を意識しましょう。ということで、通路に平均より少し広めの足跡を書いてインターバルウォーキングを進めています。



### 健康セミナー

毎年、健康や心に関する著名な講師をお招きして、従業員向けの健康セミナーを開催しています。平成28年度はプロスポーツ選手のトレーナーも務める講師をお招きしてボディケアを学びました。



### 津田駒ヘルシーチャレンジ(平成28年度開催) 「冬に備えて免疫力アップチャレンジ」

子会社で生産販売している工場野菜ベビーリーフ「ベジキララ」や市販のヨーグルトを特価で販売。野菜を1日350g以上摂取しようというチャレンジや、腸内環境をアップして免疫力を上げるチャレンジを展開しました。



### パワーチャージマップ掲出

会社の構内も意識して歩くことで、立派な運動になるというアイデアから生まれたのが、パワーチャージマップです。会社構内の地図に距離や消費カロリーを書いて、掲示しています。



# 連結財務データ

## 連結貸借対照表 (単位：百万円)

科目	前期 平成27年11月30日現在	当期 平成28年11月30日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産	24,952	23,791
固定資産	12,857	12,388
有形固定資産	9,474	9,396
無形固定資産	55	80
投資その他の資産	3,328	2,911
<b>資産合計</b>	<b>37,810</b>	<b>36,179</b>
<b>負債の部</b>		
流動負債	17,750	16,888
固定負債	6,073	5,984
<b>負債合計</b>	<b>23,824</b>	<b>22,872</b>
<b>純資産の部</b>		
株主資本	12,149	12,587
その他の包括利益累計額	891	△ 275
非支配株主持分	944	995
<b>純資産合計</b>	<b>13,985</b>	<b>13,307</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>37,810</b>	<b>36,179</b>

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 連結損益計算書 (単位：百万円)

科目	前期 平成26年12月1日から 平成27年11月30日まで	当期 平成27年12月1日から 平成28年11月30日まで
売上高	36,916	38,870
営業利益又は営業損失 (△)	△ 274	728
経常利益又は経常損失 (△)	△ 381	584
税金等調整前当期純利益又は 税金等調整前当期純損失 (△)	△ 444	576
当期純利益又は当期純損失 (△)	△ 481	493
親会社株主に帰属する当期純利益又は 親会社株主に帰属する当期純損失 (△)	△ 443	437

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 連結キャッシュ・フロー計算書の概要 (単位：百万円)



## 会社概要

本社所在地 〒921-8650 石川県金沢市野町5丁目18番18号  
 設立 昭和14年12月30日（創業 明治42年3月）

資本金 123億1,654万円  
 従業員 951名

### 役員状況（平成29年2月28日現在）

代表取締役会長	菱 沼 捷 二	
代表取締役社長	高 納 伸 宏	コンポジット機械部門統括、工作機械関連事業統括
取締役	諏 訪 満	
取締役	松 任 宏 幸	管理部門統括、総務部長、知財・情報管理部長、輸出管理室長、津田駒機械設備（上海）有限公司 董事長、津田駒機械製造（常熟）有限公司 董事長、TSUDAKOMA SERVICE INDIA PRIVATE LIMITED 代表取締役、ふぁみーゆツダコマ株式会社 代表取締役
取締役	山 田 茂 生	繊維機械事業統括、調達部門統括、株式会社T-Tech Japan 代表取締役
取締役	北 野 浩 司	製造部門統括、品質保証部門統括
取締役	越 馬 進 治	
取締役	潮 田 資 勝	
常勤監査役	橋 本 政 隆	
監査役	澁 谷 進 隆	（澁谷工業株式会社 取締役副会長）
監査役	梶 政 隆	（カジナイロン株式会社 代表取締役社長）
執行役員	松 本 勝 一	工機販売部門担当
執行役員	坂 井 一 仁	コンポジット機械部長
執行役員	大 森 充 和	工機技術部門担当、新製品推進室担当、ツダコマテクノサポート株式会社 代表取締役
執行役員	浅 井 俊 和	製造第1部長
執行役員	室 哲 也	生産技術部長
執行役員	長 谷 博 史	品質保証部長
顧問	竹 鼻 達 夫	
顧問	西 野 順 一	

\*取締役 越馬進治氏及び潮田資勝氏は社外取締役です。

\*監査役 澁谷進氏及び梶政隆氏は社外監査役です。

## 株式の概況（平成28年11月30日現在）

### 株式の状況

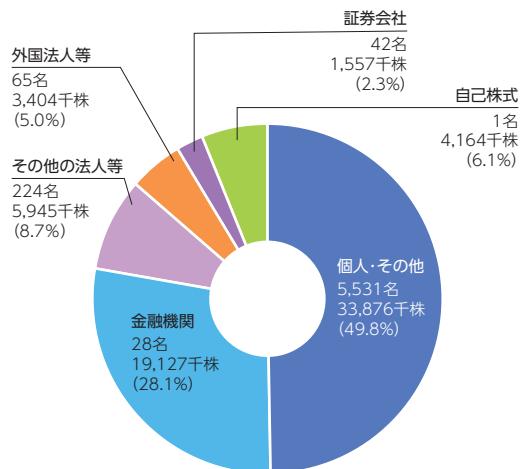
①発行可能株式総数	199,003,000株
②発行済株式の総数	68,075,552株
	（内自己株式の数）
	（4,164,225株）
③単元株式数	1,000株
④株主数	5,891名

### 大株主の状況

株 主 名	持株数（千株）
津田駒取引先持株会	9,783
明治安田生命保険相互会社	3,509
株式会社北陸銀行	2,580
株式会社北國銀行	2,320
ツダコマ従業員持株会	1,797
三井住友海上火災保険株式会社	1,785
東京海上日動火災保険株式会社	1,775
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	1,675
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	1,527
丸紅株式会社	1,023

（注）当社の保有する自己株式4,164千株は上記表には含んでおりません。

### 株式の分布状況





## 株主メモ

事業年度	毎年12月1日から翌年11月30日まで
基準日	定時株主総会・期末配当 毎年11月30日 中間配当 毎年5月31日
定時株主総会	毎年2月
公告方法	当社ホームページ上に掲載
上場証券取引所	東京証券取引所（第1部）
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	TEL 0120-782-031（フリーダイヤル） 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の全国 各支店で行っております。

ホームページのご案内

<http://www.tsudakoma.co.jp/>